

1,000人が参加し26トンのごみを回収 瀬戸内を囲む4県で一齐清掃

7月5日、瀬戸内4県(広島県、岡山県、香川県、愛媛県)と(公財)日本財団が展開している包括的海洋ごみ削減プロジェクト『オアシャンズX』の取り組みとして、4県で同日・同時時間帯に海岸を

清掃する「瀬戸内4県一齐清掃大作戦!」が開催されました。4県の会場をリレー中継しながら開会式を行い、各県の知事のあいさつや、海ごみ対策について共有した後、一齐に海岸を清掃しました。4県合わせて千人を超える人が参加し、約26トンのごみを回収しました。

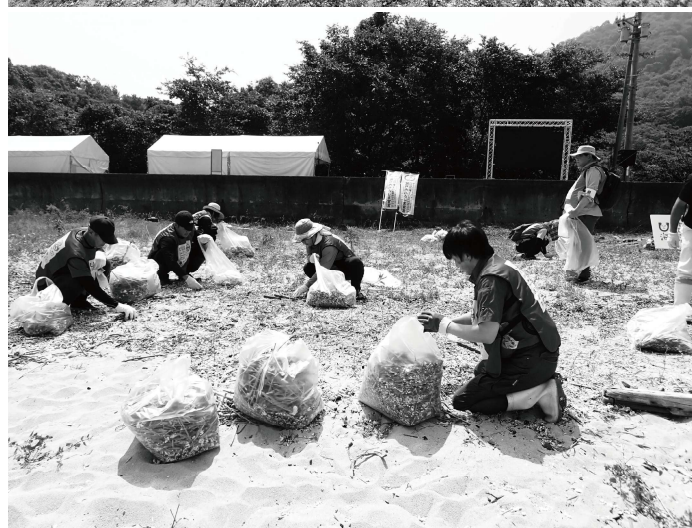
広島県では、江田市の荒代海岸が会場となり、オアシャンズXの呼びかけに呼応した広島県民やGSHIP参画会員、漁業関係者、江田島市民など多くの人が参加し、約1.5tのごみを回収しました。会場では、カキ養殖フロートの流出を低減させるための工夫として、カバーやコーティング、個体管理などを取り入れるな

ど、漁業者の取り組みなども紹介されました。広島県では、オアシャンズXのみならず、県独自の取り組みとして、企業や団体を参画メンバーとするプラットフォーム「GSHIP」を設立して、あらゆる方面から海洋ごみ対策を行っています。

GSHIPでは、11月1日に広島で最も海洋ごみが漂着している場所の一つである大江浦(宮島)で、11月2日には江田島湾三高港周辺で清掃活動を予定しています。特に宮島では、プラスチックごみ削減を目的に、住民や旅行者の行動変容につながる実証実験などが計画されており、みなで海洋プラスチックごみ削減を目指す活動を行います。



広島会場には200人を超える参加者が集まった(上)、漂着ごみを熱心に集める参加者(下)



皆さまでも、引き続き啓発活動や美化活動にご協力をお願いいたします。

(地域活動支援センター)

「米づくり」を通じた環境学習 公衛協と学校をつなぐ学社融合の取り組み

6月30日(月)に、福山市赤坂学区公衆衛生推進委員会が赤坂小学校5年生を対象に田んぼの学習会を実施し、当協会職員が講師を務めました。

児童は1年を通して「米づくり」をキーワードにした環境学習に取り組んでおり、今回は自分たちが稲を植えた田んぼにすんでいる生き物の採集と観察を行いました。田んぼにはホウネンエビやジャンボタニシ、ゲンゴロウの幼虫などがいたものの、カイエビがあまり見られないなど、例年よりも生物量が少ないという結果になりました。このことに対して、



⑧福山市赤坂学区

子どもたちから「田んぼの水が蒸発して少なかった」「気温だけでなく、水も土も温度が高かった」などの意見があり、地球温暖化による生物への影響について考えるきっかけになりました。

また、環境が変わって生き物が減ることによって生態系にどのような影響があるのかについて、生物同士の食べる・食われるの関係から学びました。子どもたちは採集した生き物の様子や環境の変化に興味を持ち、熱心に講師の話を聞いていました。

福山市赤坂学区公衛委と赤坂小学校が連携して行う「水田学習」は、今年度で12年目を迎えました。講座内では宮宗赤坂学区公衛委員長より公衛協活動の紹介があり、地域の公衛協と学校をつなぐ大きな役割を担っています。この活動が今後も長く続き、公衛協と学校のつながりが続くとともに、子どもたちの自然への興味や環境保全意識の向上につながることを期待します。

(地域活動支援センター)



田んぼに入って生き物を探す児童(上)、田んぼの環境について学ぶ(下)



採集した生き物に興味津々

環保協の 環境生活 センター

(45)材料試験室

私たちの暮らしを支える基盤

環境への配慮も

当協会の材料試験室では、コンクリートの圧縮強度試験などを長年にわたり実施しています。その関係で、今回は建築の材料であるコンクリートについて、最近の動向も踏まえながらお話ししたいと思います。

コンクリートは、長い歴史と信頼性を持つ材料で、今回は建築の材料であるコンクリートについて、最近の動向も踏まえながらお話ししたいと思います。

さらに、コンクリートはデザインの自由度も高く、色や表面仕上げを工夫することで、モダンな建築やアート作品にも適用できます。住宅や街並みのアクセ

す。古くは紀元前のエジプトの時代から使われてきた信頼の素材であり、その強靱な耐久性とともに、これから街づくりに欠かせない

材料試験室では、これから皆さまの暮らしに直結する建物やインフラ整備の一助となるべく、建築材料の強度試験を継続してまいります。

存在です。未来の暮らしを支えるため、コンクリートは進化し続けています。



コンクリートの圧縮強度試験